



社会福祉法人  
青祥会

SEISHOKAI

第112回 介護老人保健施設職員現任研修会(岐阜県)

介護老人保健施設

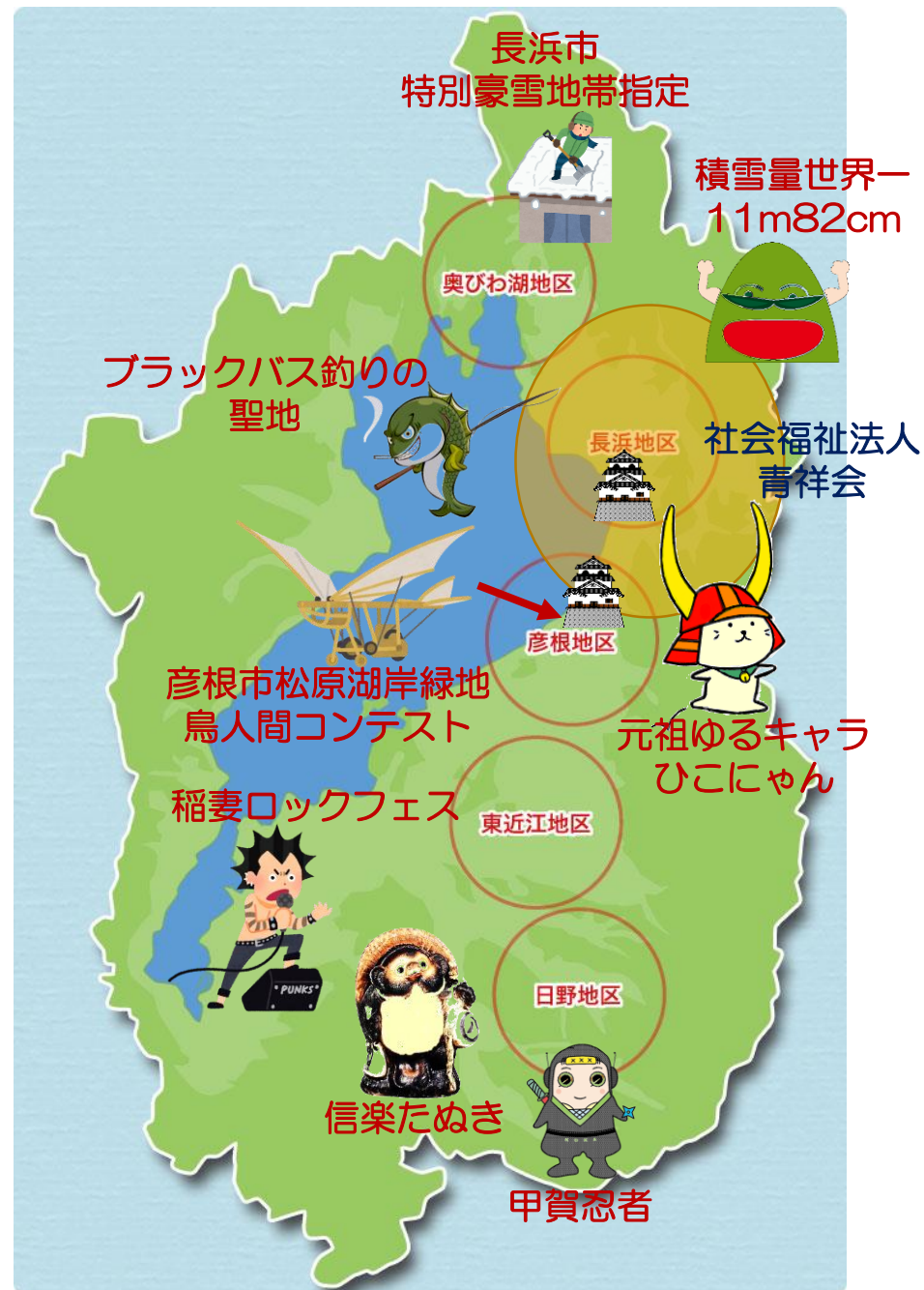
長浜メディケアセンター





# 施設紹介

- 社会福祉法人 青祥会（本部：滋賀県長浜市）  
長浜市・米原市・愛荘町にて59事業を展開
- 介護老人保健施設 長浜メディケアセンター
- 滋賀県長浜市
- 平成5年9月開設
- 入所定員 104名  
(個室10室 多床室25室)
- 通所リハビリ定員 40名
- 介護保健施設サービス費：I (iv)算定





# 施設の特徴



- **Objective** : その人がその人らしく居るべき場所で暮らすために
  - 通過型中間施設として病院と在宅を繋ぐ地域包括ケアシステムの役割
  - 基幹病院⇔施設⇔居宅系サービス（ケアマネ含む）との連携重視
  - 看取りケアの取り組み
- 平成24年4月～ 在宅強化型老健
  - 在宅復帰率 71.90%(令和5年6月現在)
  - 稼働率 99.99%(令和5年6月現在)
- 医師（常勤1名、非常勤1名）
- リハビリ専門職 7.10人
- 介護職員 35.77人
- 看護職員 10.78人
- 介護職員 35.77人（いずれも常勤換算）





# ICT導入のきっかけ

## Challenges

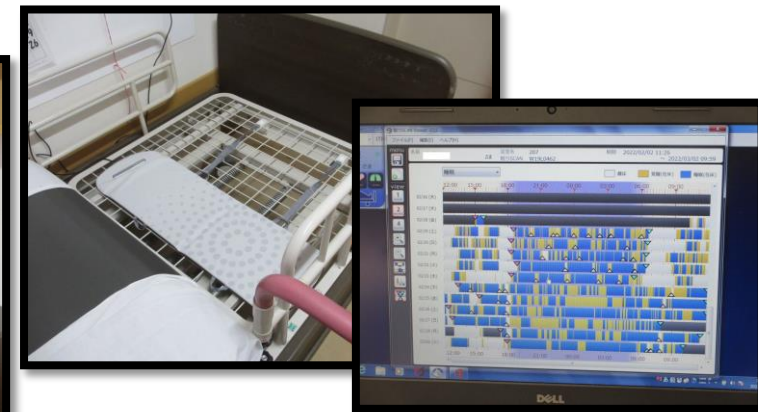
- 介護人材不足への対応と業務負担軽減を図ることでサービスの質的向上を目指す

## Strategy

- 外国人技能実習生受け入れとICT導入を積極的に推進

## Specific contents

- 最初は、リハビリ用ロボット（歩行訓練用）と介護用ロボット（介護負担軽減用）
- 2018年 介護報酬請求システムの入替えに伴い介護記録システムの導入を検討
- 将来的なICT化を見据えてシステムの柔軟性の高さを基準に選定  
→CAREKARTE（導入時は「ちょうじゅ」）を導入

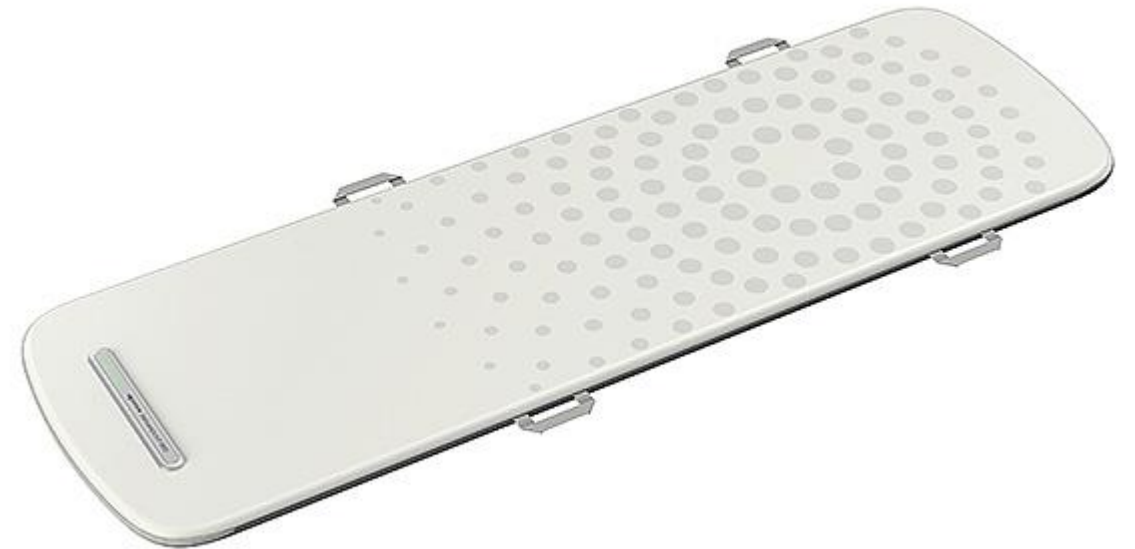


各種補助金  
が後押し



## 眠りSCANの導入とその効果

- マットレスの下に敷いて人の体動を捉えることで、睡眠状態に加え、起きあがりや離床・在床・心拍数や呼吸数を把握できる
- 非接触・非装着・非侵襲型センサーなので、睡眠を阻害しない
- LAN接続することでPCやモバイル端末などでモニタリングでき、予め設定値を登録しておけば通知もしてくれる



パラマウントベッドHPより引用



# 眠りSCANは「見守りセンサー」なのか？

- 睡眠状態に加え、起き上がりや離床・在床・心拍数や呼吸数を把握でき、予め設定値を決めておけば、異常値を示した段階で通知してくれる（見守り支援システム）
- 通知がなければ「安眠」、通知があれば「訪室して現状確認→対応」
- これにより、夜勤者の巡回負担を効率化できる

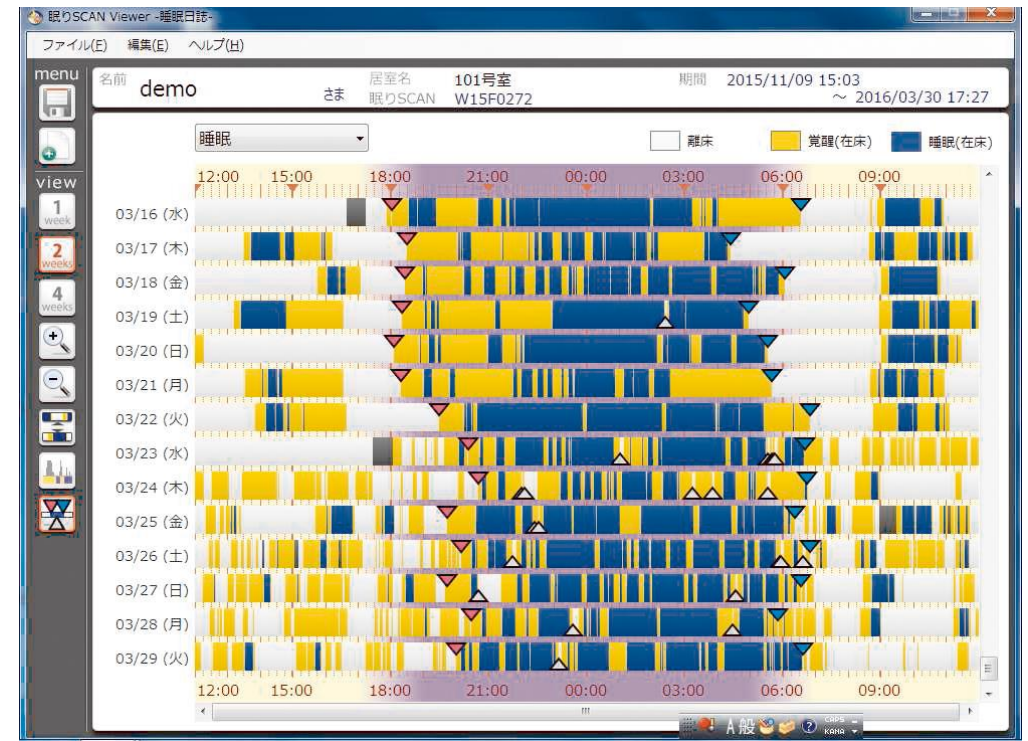


パラマウントベッドHPより引用



# 眠りSCANは単なる見守りセンサーではない

- 眠りSCANは、ベッド上での体動を検知し、さらに心拍数や呼吸数も検知できるので、巡回負担軽減の他、看取りケアや夜間の急変に対する夜勤者の不安軽減に威力を発揮する
- もう一つの強みは、睡眠効率（ベッドに居た時間時間に対する睡眠・覚醒の割合）を測定できること
- 睡眠効率から見えてくる利用者の特性をケアの質的向上に応用する



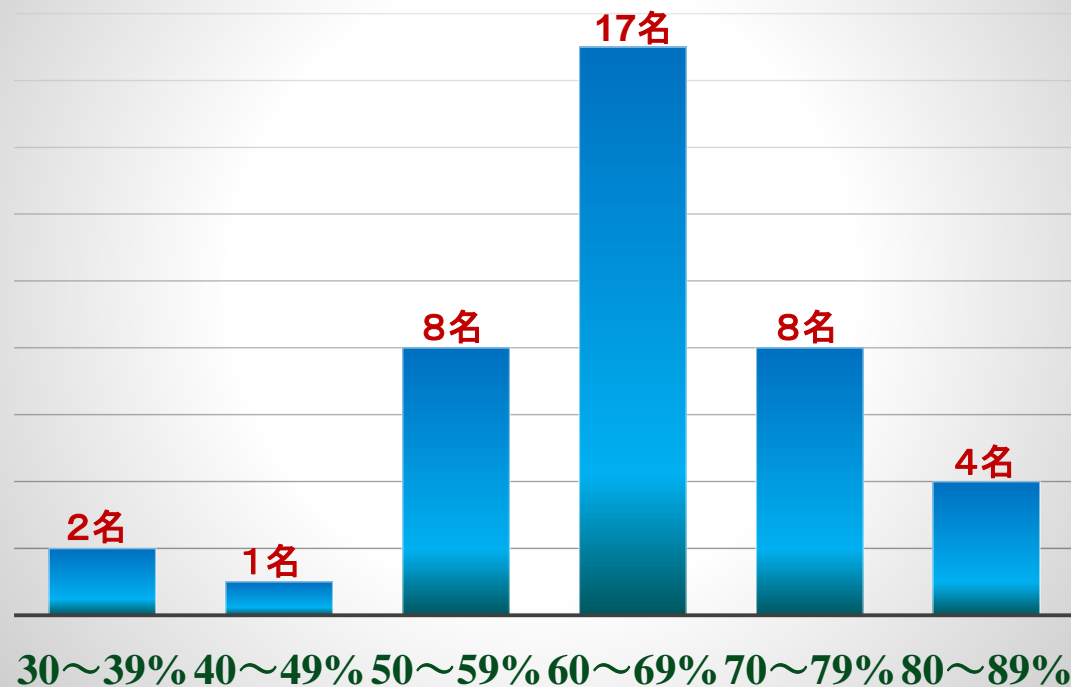
パラマウントベッドHPより引用



## 当事業所での活用例

- 入所者104名のうち、「日中傾眠」「朝起床が苦手」「夜間覚醒が多い」など、日頃のケアの中で気に掛かる利用者40名をピックアップし、導入している6台の眠りSCANを2週間ずつセットして睡眠状況を調査

睡眠効率の内訳

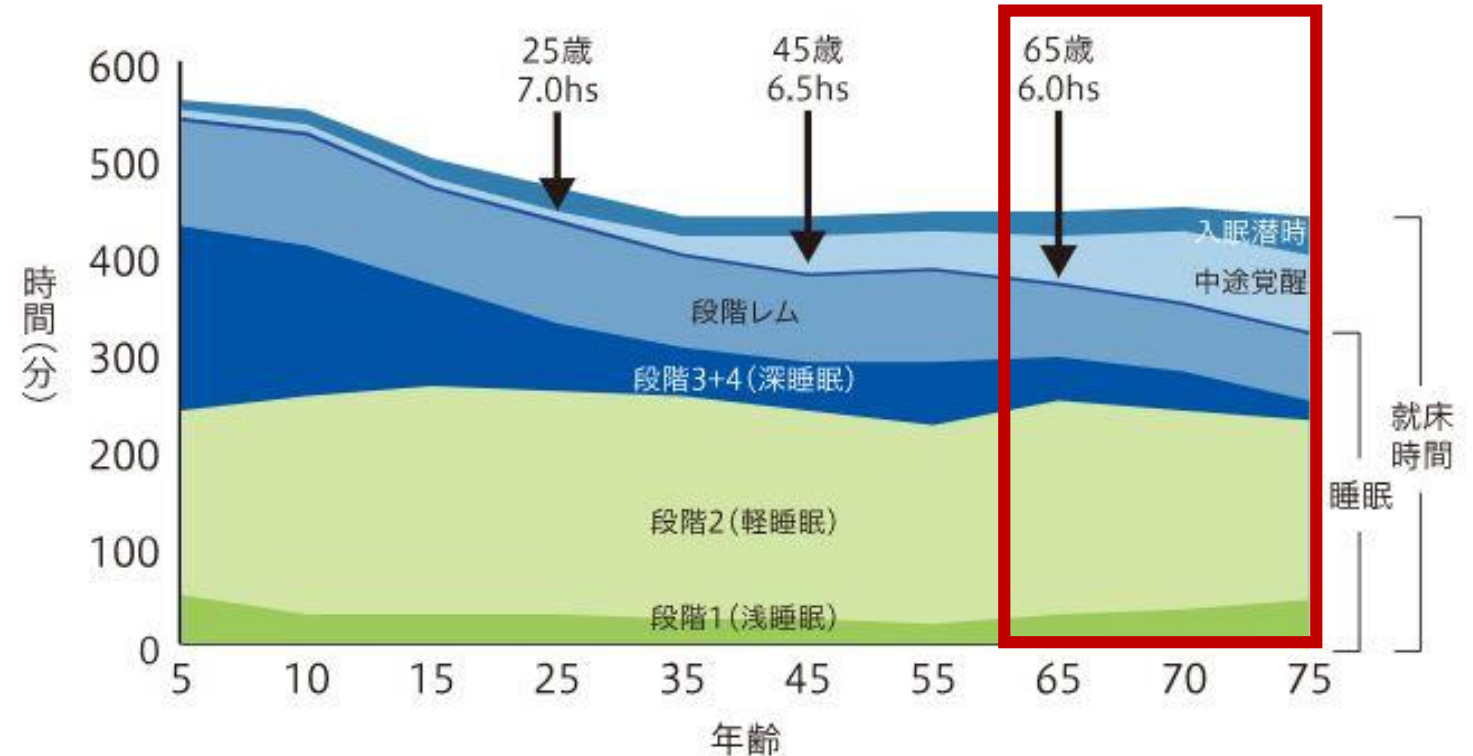






# 睡眠時間と睡眠効率

- 65歳以上の高齢者では、必要な睡眠時間は6時間と言われ、理想的な睡眠効率は80%とされています
- その理想的状況から大きく外れた利用者について、眠りSCANを活用したアセスメントを実施



Web site: 睡眠リズムラボより引用



## 排泄ケアの見直しにより睡眠が向上した事例

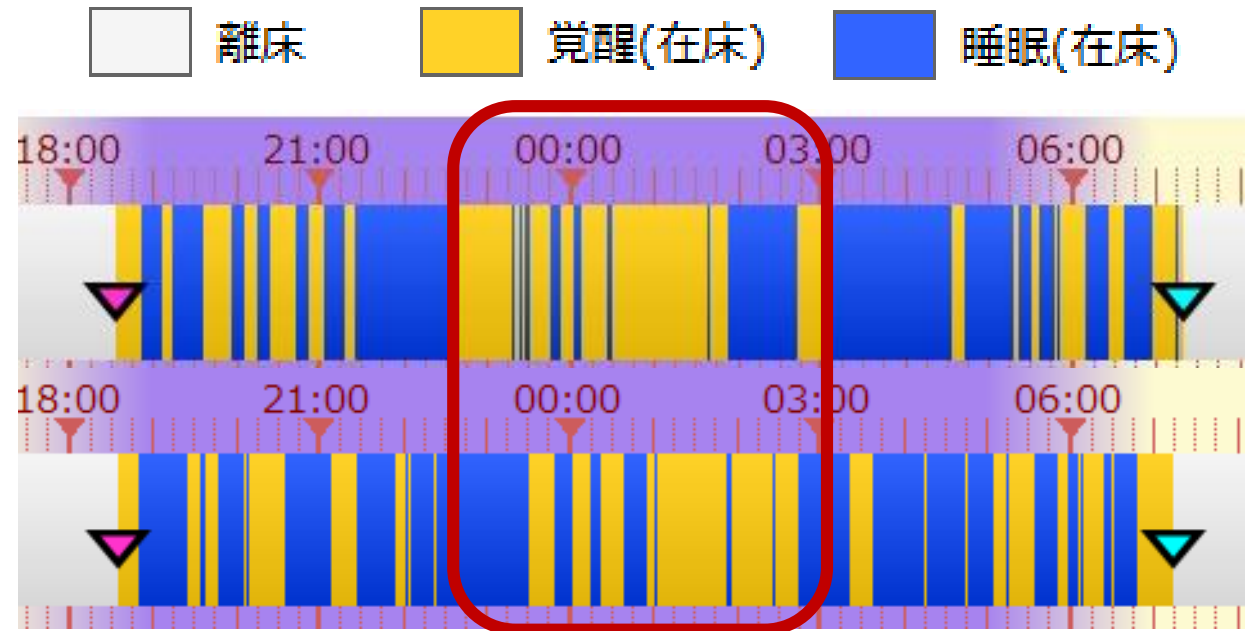
- 85歳女性、要介護度 3
- 脳梗塞による右半身麻痺と言語障害
- 既往歴は潰瘍性大腸炎
- 活動の場には出てくれるが、座ったまま傾眠
- 夜間、ベッド上での起き上がりなどはない
- 日中はトイレ誘導を行い、夜間は定時パット交換





# 睡眠の質は？

- 巡回による確認では、いずれの時間帯も閉眼されており、しっかり眠れていると思っていた
- 眠りSCANのデータから、実は22時30分頃から2時30分ころまでの間は、覚醒していることが判明
- それ以外の時間帯も断続的に覚醒されており、十分な睡眠がとれていない



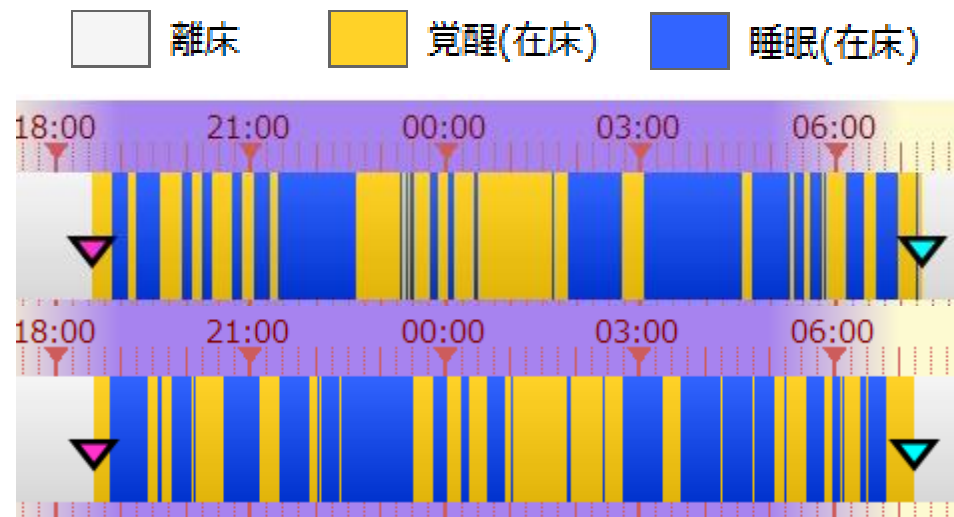
睡眠効率**は56%**

19:00～翌7:00(12時間) ベッド上で過ごされ、その内56%(6時間40分)は睡眠だが、断片的で浅眠である



# PDCA発動！

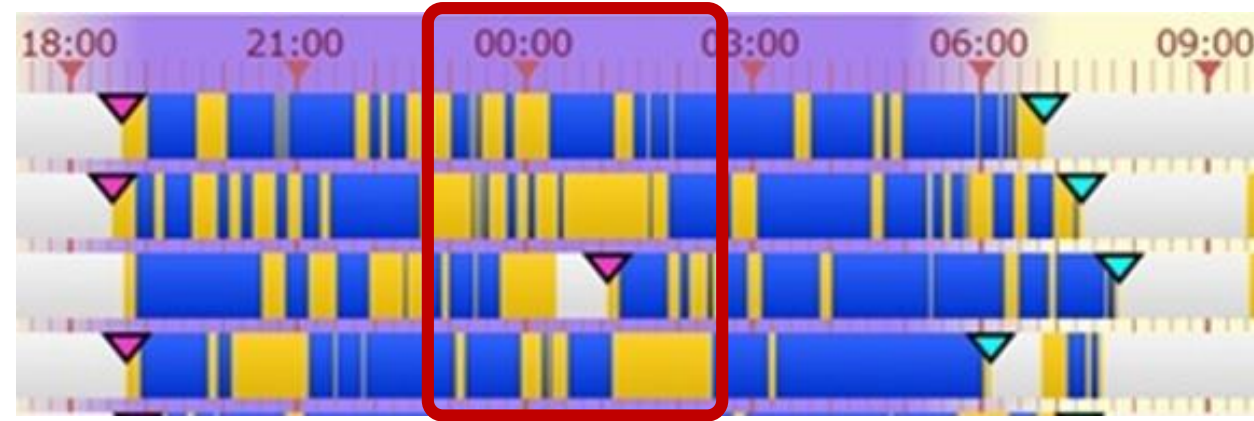
- なぜ目が覚める？
  - 1時頃に定時パット交換を行っていた
  - パット交換時にはかなりの失禁状態
- パット交換後にはまとまった睡眠が確認されている
- 失禁による不快感から眠れていない？
- 入眠前のトイレ誘導時間、パット交換時間を変更





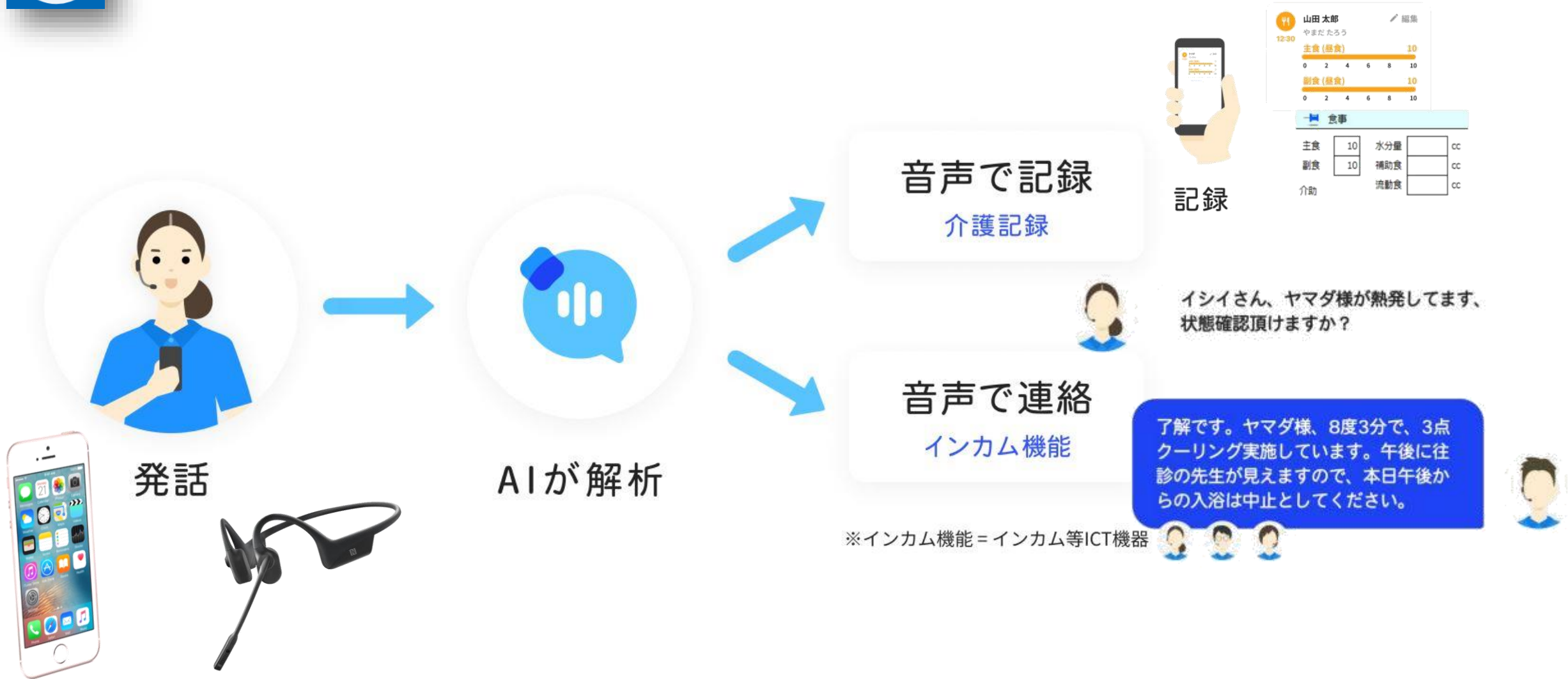
## 睡眠効率78%に改善！

- 排泄ケアの変更を行ったことで、これまで覚醒が多かった22時30分から2時30分までの睡眠状況が改善
- 睡眠効率は、78%まで改善
- 日中の傾眠も改善し、活動にも意欲的！
- 眠剤の調整や認知症者の夜間覚醒などにも応用可能





# CAREKARTE\_ハナスト システム構成





# CAREKARTE ツナがる : Link ハナストは 介護業務の *Dreams, Future, and Reality!*

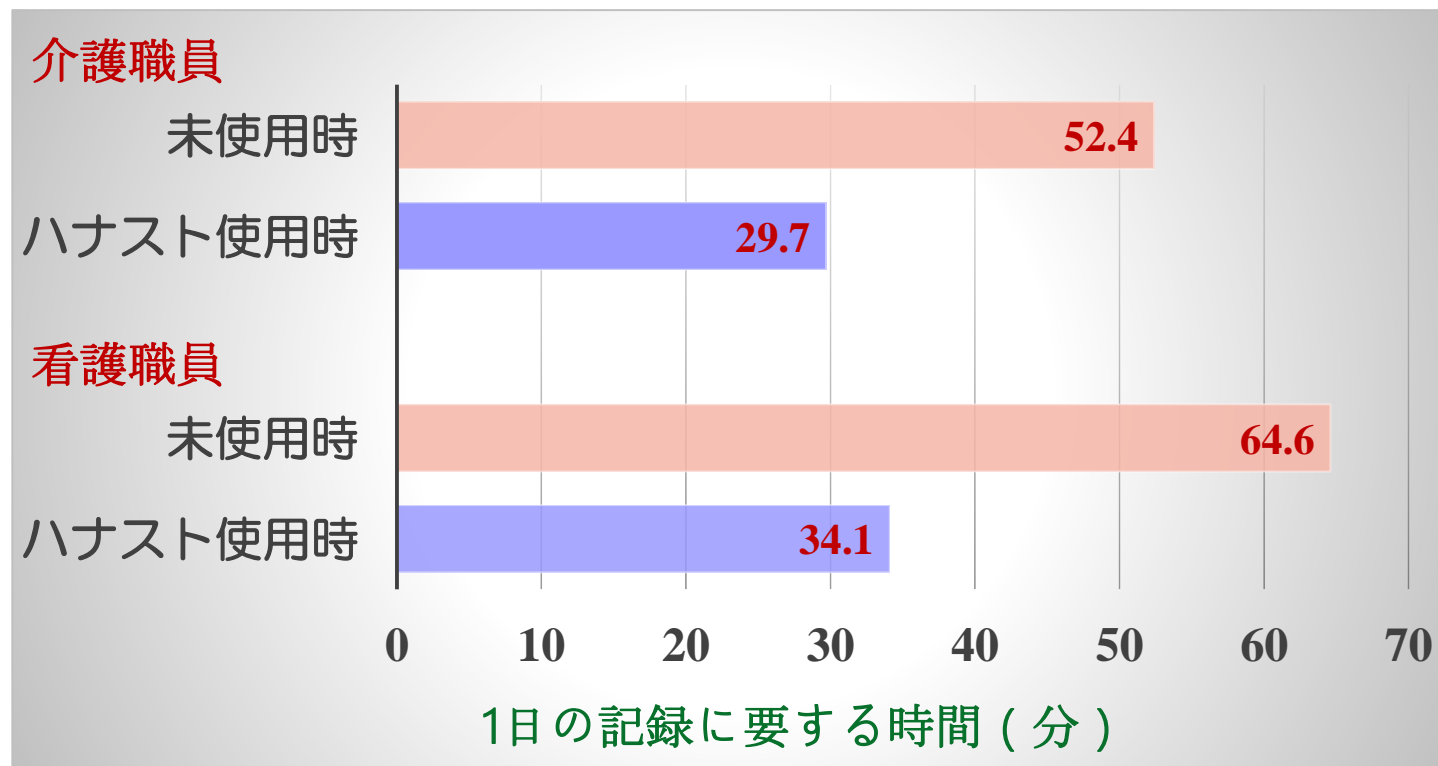
- 夢の「ながら記録」が現実に・・・記録のための時間が激減
  - 下膳しながら、居空間を移動しながら、バイタルを確認しながら同時に記録できる
  - 「ながら記録」ができるので、「あれ、何だったっけ？」と記憶を辿らなくても良い
  - ケアした直後に記録できるので、CAREKARTEでほぼリアルタイムに記録を確認できる
  - 「連絡」と言って用件を話せばみんなにメッセージが届き、話した内容はテキストにも記録され、見直しできる
- …メリットが多過ぎて伝えきれませんので、是非体験してください。





# ハナスト導入により記録所要時間は半減！

- PCやiPadを使用した記録所要時間に対し、介護職員では22.7分、看護職員では30.5分の短縮を実現
- さらに、記録のためにとまった時間を取るのではなく、「ながら記録」による所要時間なので、実質的にはもっと多くの時間を利用者ケアに回せている







# ハナストの隠れた才能

👉 「ハナスト」の真価は感染対応の時に発揮

☆ レッドゾーンスタッフとのコミュニケーションが容易

- レッドゾーン対応の職員の不安が軽減される

☆ レッドゾーン内の利用者の様子をリアルタイムに記録で確認できる

☆ 記録のたびにiPadやPCに触れなくても良い

☆ 連絡を取りたいときもPHSや電話に触れずに話せる

☆ レッドゾーン内に頻回に出入りしなくても様子を知ることができるので、ガウン等の消費軽減にも役立つ





## ハナストの導入は大変か？

- 「ハナスト」の使い始めは、何か恥ずかしい…
  - 独り言をぶつぶつ話している感じ
  - 「ハナスト」もみんなが使えば当たり前



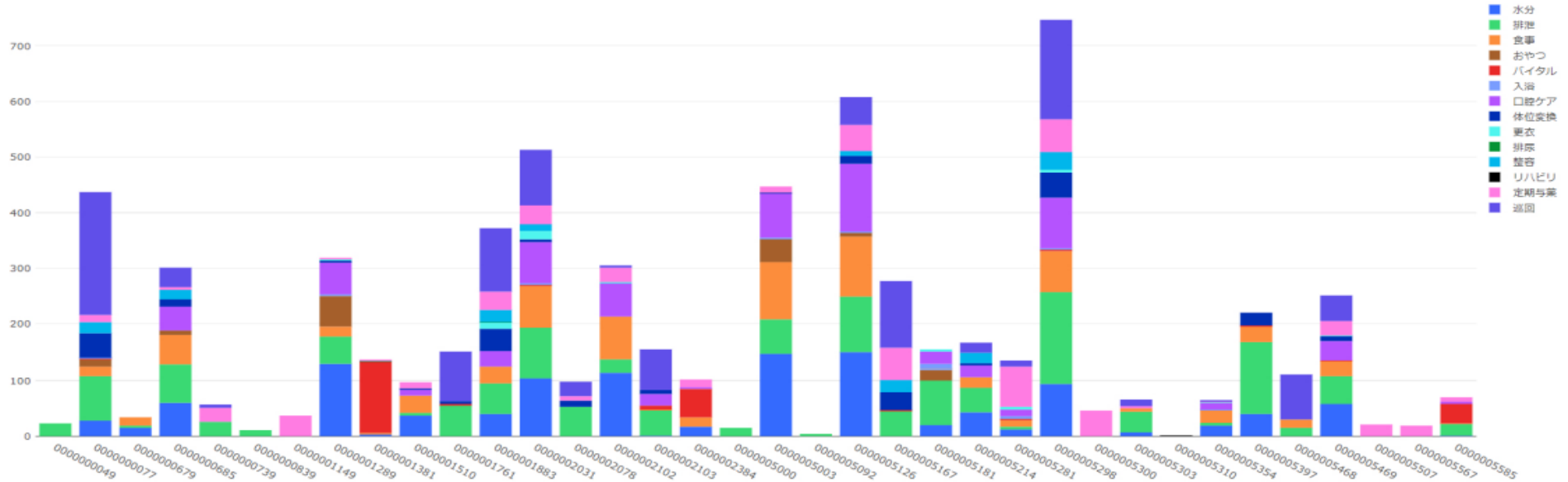
- 喋ったことが記録になる…（凄い）
- 便利そうだけど、いざ喋ろうと思うといつものようにすら喋れない…
- 「Hey Wiz 記録 ○○様 食事 様子 えーっと…」

ハナストは車の運転と同じで、トレーニングと馴化が大切  
慣れると、ハナストが無い業務は考えられない



# 進化し続けるCAREKARTEとハナスト

1週間での、スタッフごとの連携済カード分布 - [439] (事業所) 1週間での、スタッフごとの連携済カード分布



- エクサウィザーズにてハナストによるカード作成状況をモニタリングされており、使用状況を可視化することで介護現場での使い方に反映できる
- 記録との連動についてもケアコネクトジャパンのサポートを通じて迅速に対応してくれ、痒い所をちゃんと搔けるようにしてくれる



## 介護DXを進めるために留意していること



使うのは介護の現場



使えるか否かの判断も介護の現場

- 成功事例を体験することの大切さ
- 現場スタッフの中に定着推進リーダーの存在が不可欠
- 管理職は、定着のための「縁の下の力持ち」であること
- 業務負担軽減はとても大切だが、やりがいのある楽しいケア業務はもっと大切なこと



# どんなロボットやICTも定着が大事

- 定着 = 使いこなし(fixation)で通常業務化(regular)する
- 介護人材不足は重大な課題ではあるが、それを解決するだけの目的でDX化を進めてもケアの質は向上しない
- 現場スタッフは、質の高いケアに飢えているけど、時間的にも心理的にもゆとりがなく、悔やんでいる
- ICT導入は台数の問題ではない！…と思っています
- ICT機器等にはさまざまな種類（業務効率を改善できるもの、ケアの質を高めるものなど）がある
- 何のために何をどれだけ導入するのか、事前に十分に議論しておくことが大切！



ご清聴ありがとうございました